

一般質問



2期目に向けて子育て支援策などを更に推進します
(主な子育て支援策を担う子ども幸福課)

引地 達雄 議員

平成26年の市長選挙について

質問(引地達雄議員) 2期目の出馬に向けた抱負について伺います。

答弁(市長) 平成22年3月に行われた市長選挙において、多くの市民の皆様方のご支持を賜り初当選させていただきました。

今日までの間、市長マニフェストの6本の柱、「すべては、子供たちの未来のために」、「高齢者・障害者が安心して暮らせる街づくり」、「地方主権時代、おおたわら改革」、「緊急雇用景気対策」、「産

業振興策の大田原ブランドの確立」、「医療と健康のまちづくり」に取り組んできました。

その中で、放射能除染作業、八溝山周辺地域定住自立圏構想、消防広域化、グリーンツーリズム事業、子育て支援策などの重要施策を確実に実行しているところですが、まだ道半ばの状況であることから、来年3月に予定されている市長選挙に再び立候補する決意を固めました。市民の皆様方の信頼を裏切ることなく、2期目に

向けて引き続き誠心誠意市政を担っていく所存です。

先に述べた子育て支援策などの重要施策を確実に推進し、行政改革も広域化を視野に入れた実効性のあるものとして、さらに踏み込んで実施していくためにも多様な人材育成、更なる医療福祉の充実、安心生活創造事業を中心

に高齢者、障害者の方々が安心して暮らせるまちづくりや地場産業の振興も目指す所存です。住みよいまち大田原づくりのために2期目に向けて頑張っていくことを申し上げ、出馬表明及び決意表明いたします。

滝田 一郎 議員

大田原市園芸拡大支援事業について

質問(滝田一郎議員) 園芸用パイプハウスの市補助事業の実績と、生産者団体との連携により園芸用パイプハウスの導入を促進して園芸振興を図るべきと考えるが、市の考えを伺います。

答弁(市長) 本市は、米、麦、畜産及び園芸のバランスをとりながら収益性の高い農業生産構造を築くという課題に取り組み、個々の農家の農業所得向上を図り、ひいては地域の活性化に資することを目標に園芸作物の生産振興の施策を

展開しています。

本市園芸拡大支援事業は、この取り組みの一環で、水稲から園芸作物への作付転換を図ることを目的に、園芸用パイプハウスを整備する市内在住の農業者、生産組合及び農業を営む法人が対象となっています。交付要件は、施設面積が330平方メートル以上1000平方メートル以下、米穀の生産者は生産調整を達成していることで、資材費の3分の1の額を補助するものです。平成24年度の実績は、8

件325万6000円の補助金を交付しており、当初予算額330万円に対し、執行率は98.7%となっています。内訳は、アスパラガス用が3件、ニラ用が3件、イチゴ用が1件及びトマト用が1件で、総事業費は977万7900円です。

また、園芸作物の生産振興を進めていくためには、生産者団体等との連携、情報交換及び要望の取りまとめの依頼等の協力的体制の確立による効果は非常に高いと考えられています。今後は各生産者団体等の農業団体及び栃木県等の公的機関等の関連団体と連携を密にして積極的な情報提供を行い、制度の利用促進を図っていきます。



補助を受けて建てられた園芸用パイプハウス